

各府省における試行版レビューシート 128事業に係る改善の取組

令和5年9月29日

内閣官房行政改革推進本部事務局

各府省の対応①

府省名	①改善に向けた取り組み等	②改善の結果
内閣府	<ul style="list-style-type: none">・ 府内全職員を対象としたEBPM研修（オンデマンド形式）を実施（EBPMの理解から重回帰分析までできる実践的な内容。EBPMの理解や分析手法がきちんと身につけているか確かめる修了確認テストも実施）。内閣府幹部会（本年4月）においても、政策立案総括審議官より本研修を周知するとともに部局長に対し部下への受講促進を依頼。・ 府内職員を対象に、有識者や他省庁のEBPM担当者を招いてロジックモデルの勉強会（2回）を開催し、効果的な指標の設定方法等についての意見交換を行った。	<ul style="list-style-type: none">・ ロジックモデルの勉強会にて、職員が、EBPMの実践に当たっての課題や悩みを持ち寄り、効果的な指標の設定方法等についての意見交換を行ったことで、適切なロジックモデルを作成するのに必要な知見を深めることができた。・ 政策の企画・立案・推進に係る業務を行うに当たって、各事業（取組）の目的・効果を測るために必要なデータを取得できるよう、ヒアリング項目に新たな項目を設ける等の改善も見られた。
公正取引委員会	該当事業なし	該当事業なし
警察庁	サイバー空間の脅威に的確に対処するための人材育成に係る事業の改善に向けた取組として、政策立案総括審議官の指導の下、事業を主管する部門の幹部も率先して検討を行うとともに、EBPM担当部門も検討に積極的に関与したほか、行革事務局からは、成果の効果を図る指標等に関する具体的なご示唆をいただくなどして、事業の適切な評価方法を設定するに至った。	これまでは、定量的評価が困難であることを認識しつつも数値による指標設定に努めた結果、成果の適切な評価に裨益しない指標となっていたところ、より適切な評価方法として、育成の対象者への追跡アンケート等を実施するなど、EBPMを用いた質的評価・見直しを行うことができる定性的な指標を採用することにより、実際に評価・見直しを行うための手法の具体的検討を行うことができた。

各府省の対応②

府省名	①改善に向けた取り組み等	②改善の結果
個人情報保護委員会	該当事業なし	該当事業なし
カジノ管理委員会	該当事業なし	該当事業なし
金融庁	一般からの「情報提供窓口」の運営に関する事業（重点FU対象事業）について、事業内容の性質上、長期アウトカムの検討が困難であったところ、アウトカムの方向性について、総務省行政評価局と協議した。	事業改善の示唆が得られるような新たなアウトカム指標を設定することができた。
消費者庁	<ul style="list-style-type: none">・担当課とEBPM推進部局のディスカッション等を通じて、事業目的やロジックの流れを整理した上で、担当課が試行錯誤して実施していることをレビューシート上に表現するとともに、事業の進捗を確認し、事業の改善に活かすことのできる質的指標の設定を促した。・消費者基本計画に基づく工程表における重点施策と位置づけられている事業について、ロジックモデルを施策単位で作成していたところ、行政事業レビューは事業単位となるため、消費者庁の活動内容に限定した上で、短期アウトカムの見直しをはじめとして、工程表のロジックモデルに比べてより解像度を上げた内容とすることで、事業の進捗が測れるものとなるよう改善を促した。	実態に合わせてアクティビティの記載を分け、それぞれの状況を確認できる指標を段階的に設定したことで、事業改善につながるものとなった。特に、広報に関するアクティビティについては、アウトプット指標・アウトカム指標の検討を通じて、今後もターゲットを意識して啓発方法を試行錯誤しながら事業を遂行する方針が確認された。

各府省の対応③

府省名	①改善に向けた取り組み等	②改善の結果
デジタル庁	デジタル庁内のみならず、総務省行政評価局や行革事務局とも議論を実施した。	デジタル庁内や他省庁と議論を深めることにより、新たなアウトカム指標の設定等につながった。
復興庁	<ul style="list-style-type: none"> 重点FU対象事業である「風評払拭・リスクコミュニケーション強化事業（国内外向け情報発信分）」について、行革事務局や総務省行政評価局からの提案と原課の考えを精査し、双方と議論を深めた。 「福島医薬品関連産業支援拠点化事業」について、短期アウトカムが設定されておらず、アウトプットからアウトカムのつながりがあいまいだったが、復興庁行政事業レビュー推進チームから具体的な短期アウトカムの設定を提案し、改善を促した。 	<p>「風評払拭・リスクコミュニケーション強化事業（国内外向け情報発信分）」において、</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果の発現経路を明確にするため、アウトプットとアウトカムの間に関期間アウトカム・中期アウトカムを新たに設定。 事業全体の効果を測定する指標として、新たにアンケート調査を取り入れることで、因果関係を明らかにすることができた。
総務省	<ul style="list-style-type: none"> レビューシートや評価書作成前に省内担当者向けの説明会を実施し、見直しの趣旨の浸透を図った。 「行政評価等実施事業」においては、局のミッションに照らし、局長以下幹部・管理職員で本事業について一から議論を行った結果、従来設定していた目標・指標では自らの業務の見直し・改善には不十分であったことから、「事業の目的」や「現状・課題」等を含め、目標・指標だけでなく事業の実施手段や評価方法の一般的な見直しを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> レビューシートの作成において、短期アウトカムの新たな設定、説明の追記等、効果発現経路を分かりやすく記載する等の改善の好事例が見られた。 「行政評価等実施事業」において、例えば、政策評価については、各府省の課題解決を今後の業務の中核とすることに合わせ、モニタリング指標として課題の把握状況を設定し、「炭鉱のカナリア」として活用することとした。また、課題解決の目標をあえて100%に設定せず困難な課題も受け止めるように工夫した。さらに制度のユーザーである各府省からの評価を中長期のアウトカムの評価方法として設定し、有識者による制度評価と組み合わせ活用することとした。

各府省の対応④

府省名	①改善に向けた取り組み等	②改善の結果
法務省	<ul style="list-style-type: none">・事業の効果等を量的に把握可能であることを前提にロジックモデルが作成されているケースが少なくなかったことから、EBPM推進部局において、活動から最終アウトカムまでのつながりを整理し、定性的なものも含めた適切な指標が設定されるよう、原課との間でゼロベースでの議論を複数回行った。・議論の際には、今年度から新たにEBPM推進部局に採用・配置されたEBPMアドバイザー（EBPMに関し専門的知見を有する職員。）も同席し、より建設的な議論となるよう配意した。	目的や課題、指標が整理され、事業の特性に応じたアウトカム指標が設定された結果、事業の実施状況等を把握しやすくなった。
外務省	重点FU対象事業について、行革事務局の支援・参加を得て、行政事業レビュー推進チームも加わった担当課との打ち合わせを複数回実施して取組の改善を試みるとともに、その他の試行版レビューシート対象事業について、推進チームとして担当課にレビューシート内容の見直しを促した。	<ul style="list-style-type: none">・定量的な成果目標／実績が設定しにくい事業について、活動指標（アウトプット）と成果指標（短期アウトカム）に定性的な説明を補足するなど、記載ぶりについて一部改善が図られた。・課題解決に向けた取組が実際に効果をもたらしているか否かを評価する上で役に立つ目標を設定した。・今般の行政事業レビューへのEBPM導入のプロセスの開始を受けて、課内関係者全体で共通認識や課題感を持つことができ、事業の透明性の確保につなげることができた。
財務省	行革事務局及び総務省行政評価局の伴走支援を受けつつ、改善に取り組んだ。	事業の目的、政策目標をより意識した成果指標の設定に向け検討を行うことができた。

各府省の対応⑤

府省名	①改善に向けた取り組み等	②改善の結果
文部科学省	<ul style="list-style-type: none"> ・レビューシート作成マニュアルを作成したほか、EBPM研修を実施した。 ・会計課及びEBPM推進部局にて全ての試行版対象事業のレビューシートのロジックを確認し、改善すべき点や考えられる修正案、レビューシート作成の考え方について丁寧に指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に丁寧に打ち合わせを実施した事業を中心に、事業の目的やロジックが整理され、現実的なアウトカム・指標を設定することができた。 ・担当者へ理解を浸透させる難しさ、公表資料であるがゆえに内容によっては柔軟に変更し難いこと、追加で費用が発生する指標は簡単には立て難いこと等、作業をする上で何がネックになるのかが明らかになった。
厚生労働省	<p>行革事務局からのコメントなども踏まえつつ、原課に対し改善案の提案等の指摘を行い、自発的な改善を促した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指標の設定理由、指標間のつながりを分かりやすく記載することができた。また、より適切な指標の設定につながるものがあった。 ・定性的な指標を設定しているものについて、説明を補足するなど記載ぶりの改善につながるものがあった。
農林水産省	<p>試行版レビューシートを作成した全事業について、公開プロセスや省内の外部有識者ヒアリングなど、EBPMに知見のある有識者と議論する場を設けることで、役所側だけでは気付かなかった多角的な視点で議論を行った。</p>	<p>事業のボトルネックがロジックの中でどこに存在するか明らかにし、その解決を目指してどのようなアウトカム指標を設定すべきか検討・見直しを行うことで、より良い事業運用や事業効果の発現につながるよう改善点を見出すことができた。</p>
経済産業省	<p>会計課及びEBPM推進部局で連携の上、原課に対してより適切なアクティビティやアウトカムの設定を検討するように促しながら、助言を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コンテンツ海外展開促進事業」について、ビジネスの流れや業務の流れに着目して、政策効果の発現経路を整理した。 ・「中小企業生産性革命推進事業」について、複数回・複数年度にわたって支援する事業につき、全ての公募に係る事業の終了を待たずにフォローが可能なアウトカムに修正するとともに、外部環境の変化等による影響の少ない指標に修正した。

各府省の対応⑥

府省名	①改善に向けた取り組み等	②改善の結果
国土交通省	EBPM補佐官（亀井善太郎補佐官、小林庸平補佐官）を招き、政策立案総括審議官等の幹部が議論を行い、レビューシートの改善に向けた議論を行った。	EBPM補佐官からは望ましいロジックの考え方や指標のあり方等の有用な助言を頂き、政策担当部局やEBPM担当にとってEBPMの実践に関する具体的な知見を得ることができた。
環境省	EBPMに必要な、アウトプット、アウトカム、ロジックの設定について、省内での理解が十分に広がっていない中、行革事務局の資料を参考にしつつ、苦慮しながら取り組んだ。	ロジックモデルの改善などを通じて各部局が持つ共通の課題や目標を明確にすることができた。
原子力規制委員会	「バックエンド分野の規制技術高度化研究事業」を始めとした安全研究事業のアウトプット・アウトカムの設定という課題に対し、原課とヒアリングを重ね改善に取り組んだ。また、庁内で管理職を交え改善に向けた議論を行った。	安全研究事業については、その開始・終了等の節目において、外部専門家や産業界等の専門的な技術的知見を有する者によるレビューを踏まえた事前、中間及び事後評価が行われており、当該枠組を行政事業レビューのアウトカム指標にも活用することができた。
防衛省	<ul style="list-style-type: none"> 「民生安定助成事業」においては、多段階の成果目標を立てることができないといった課題に対して、活動内容の細分化やその細分化した活動目的に応じた発現効果を確認する成果指標の設定について指摘し、活動内容を整理するとともに、各活動の成果指標を設定するなどの改善を促した。 「特定防衛施設周辺整備調整交付金」においては、多段階の成果目標を立てることができないといった課題に対して、活動目的に応じた発現効果を確認する成果指標の設定について指摘し、成果指標の設定においては事業評価書の結果を活用するなどの改善を促した。 	アクティビティを細分化して短期アウトカムを設定したほか、発現段階及び事業目的を考慮することで短期アウトカム及び長期アウトカムを設定することができた。